

授業科目	構音障害Ⅳ（運動障害性）				
担当者	熊倉勇美				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 学年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

### ■ 授業目的・内容

運動障害性構音障害だけでなく、口腔・中咽頭がん術後の構音障害についても学びます。急性期リハ、回復期リハ、維持期リハでの ST の果たす役割について、また医師・歯科医師との協業についても学びます。case study をたくさん提示します。

### ■ 到達目標

dysarthria、器質性構音障害を理解し、分析と訓練のプラン、実施が出来るようにしましょう。

### ■ 授業計画

- 第1回 構音障害と ST 臨床の流れ、これまでの歴史を振り返って
- 第2回 dysarthria（運動障害性構音障害）とはどのようなものか？
- 第3回 臨床で出会う問題：失語症・発語失行などとの鑑別
- 第4回 dysarthria の原因疾患
- 第5回 dysarthria の発話症状
- 第6回 ST の果たす役割：観察・検査の実施と評価、分析
- 第7回 包括的検査と要素的検査：考え方
- 第8回 dysarthria のリハビリテーションの考え方
- 第9回 具体的な訓練の方法
- 第10回 具体的な訓練の方法とその実際
- 第11回 organic articulation disorders（器質性構音障害）とはどのようなものか？
- 第12回 口腔・中咽頭癌の原因、医学的治療、後遺するさまざまな問題
- 第13回 ST の果たす役割：観察・検査の実施（評価・分析）
- 第14回 ST の果たす役割：訓練・補綴治療①補綴歯科医との協業
- 第15回 ST の果たす役割：訓練・補綴治療②まとめ

### ■ 評価方法

科目試験（筆記試験）80%、小テスト20%：具体的に指示しますので、予習・確認をすること。

### ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

講義は case study などを通じて、具体的・体験的に行います。確認したいことや疑問点などがあれば、積極的に質問などで発言して下さい。予習・復習に関しては、講義中に指示します。

### ■ 教科書

書 名：①改訂運動障害性構音障害

著者名：熊倉勇美編著

出版社：建帛社

書 名：②口腔中咽頭がんのリハビリテーションー構音障害・摂食嚥下障害ー

著者名：溝尻源太郎・熊倉勇美編著

出版社：医歯薬出版

## ■ 参考図書

書名：言語聴覚士のアルバム－原点と未来を見つめて－第8章・構音障害（熊倉勇美）

著者名：東京都言語聴覚士会編

出版社：株式会社ヒューマンプレス

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。